

東日本高速道路株式会社 北海道支社
支 社 長 堀 圭一

質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 東占冠トンネル工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	<p>金抜設計書の2頁、番号15に「構造物掘削 普通部 32,328m³」が記載されていますが、特記仕様書P33の「28-2-3 構造物掘削」に記載がありません。用途としては本線盛土箇所の路体部に使用すると考えてよろしいでしょうか。</p> <p>区分内容についてご教示ください。</p>	ご認識のとおりです。
2	<p>特記仕様書 28 28-3 高盛土排水工 (3)</p> <p>「6) 高盛土区間の施工にあたっては、・・・緩速施工 (10 cm/day 以下) にて施工を行う・・・」と記載がありますが、緩速施工の対象となるのは「高盛土排水工の敷均し、締固め」のみでしょうか。</p> <p>それとも、「高盛土区間全ての敷均し、締固め」なのでしょうか。</p>	高盛土区間の全ての敷均し、締固めが対象となります。
3	<p>特記仕様書 17 17-1 盛土材等 (5)</p> <p>高盛土排水工のり尻工Aに使用する材料は最大寸法 200mm以下と記載がありますが、設計図(1号高盛土排水工詳細図(2))のり尻工詳細図にて「フィルター材切込碎石 0~80mm」との記載があります。</p> <p>どちらの材料を使用するのが正しいのでしょうか。</p>	材料の規格は 200 mm以下となります。 なお、使用材料は 0~80 mmを想定しています。

番号	質問事項	回 答
4	<p>設計図 トンネル 154, 161～166/171</p> <p>設計図 トンネル 154, 161～166/171 の天端沈下測定では天端部のみの記載となっています。</p> <p>一方、トンネル施工管理要領 2-5-1 (1) ①天端沈下測定で上面左右脚部の沈下測定②アーチ部左右の沈下測定とあります。</p> <p>設計図とおり、天端沈下測定は天端 1 点のみと考えてよろしいでしょうか。</p>	トンネル施工管理要領に記載のとおり、天端沈下測定と上面左右脚部の沈下測定を行います。
5	<p>「割掛対照表参考内訳書」と「割掛対象表」について割掛け項目名称が整合性に欠けています。</p> <p>整合性のとれた“割掛け対象表”的ご提示をお願いします。</p>	割掛け対象表について訂正します。
6	<p>本線盛土場の高盛土箇所で使用するトンネル掘削ずりは岩塊材料であり、高盛土の品質管理は、「土工施工管理要領 (R5.7)」の P3-152 の表 11-1 における工法指定・施工確認方式が適用となると想定されますが、P3-155 の表 11-4 の路体の管理基準値の目安に示される通り、施工仕上がり厚、締固め機械はモデル施工により決定すると考えてよろしいでしょうか。</p>	ご認識のとおりです。
7	<p>トンネル掘削ずりを本線盛土場の盛土材として使用するにあたって小割、破碎等の粒度調整が必要となった場合は、協議の上、設計変更の対象とされるものでしょうか。</p>	トンネル掘削ずりを盛土材として使用するための小割、破碎等の粒度調整に必要な費用は含まれております。

番号	質問事項	回答
8	<p>評価項目①「トンネルづくりを活用した高盛土施工時の品質管理方法に関する提案」について、</p> <p>(1) 設計図面に示される排水材以外の排水材の追加設置 (2) 高盛土下部の地山を一部地盤改良</p> <p>等は、「設計図面の変更」が必要になりますでしょうか。</p> <p>また、「設計図面の変更」を伴う提案は、【入札公告(説明書)P6:技術評価項目及び技術評価基準 ◇留意事項①】の「本工事の設計図書に適合しない」に該当し、提案は不採用となるのでしょうか。</p>	設計図面の変更が本工事の設計図書に適合しないに該当するかは、提案内容により評価致します。
9	<p>評価項目①「トンネルづくりを活用した高盛土施工時の品質管理方法に関する提案」について、【入札公告(説明書)P6:技術評価項目及び技術評価基準 ◇過度なコスト負担を要する提案の取扱い】の事例として、「施工管理要領等で規定する基準以上の管理手法の提案」とありますが、施工管理要領等に規定する管理手法以外で、高盛土の品質管理を強化、品質を向上させ、過度なコスト負担を要しないと考えられる管理手法は、評価の対象とならないのでしょうか。</p> <p>あくまで、過度なコスト負担の「一例として」施工管理要領等で規定する基準以上の管理手法を挙げているだけなのでしょうか。</p>	施工管理要領等に規定する基準以上の管理手法の提案を行った場合、過度なコスト負担に該当するかは、提案内容により評価致します。
10	評価項目①「トンネルづくりを活用した高盛土施工時の品質管理方法に関する提案」について、「品質管理」とは、土工施工管理要領に示される盛土の含水比、締固め度等の管理項目に限定されるのでしょうか。	提案については、施工管理要領の管理基準を満たした上で、貴社の考える施工計画に基づき提案をお願い致します。

番号	質問事項	回 答
1 1	特記仕様書 17-1(6)の記述から、(1)盛土工 A1～A4 と同様に、(2)盛土工 A5 および(3)インバート埋戻し工の材料も購入材と考えてよいですか。	ご認識のとおりです。
1 2	トンネル設計図 19/171、支保パッソーン(4)、諸元表の下に「※()は D I -b(H)-B のロックボルト長を示す」と記載されていますが、「D I -b(H)-SB」も含まれると考えてよいですか。	ご認識のとおりです。
1 3	トンネル設計図 26/171、支保パッソーン(11)、吹付け・ロックボルト工図に記載のインバート吹付コンクリートの厚さは $t=20 \rightarrow t=200$ ではないでしょうか。	$t=200$ が正です。
1 4	トンネル設計図 21～27, 29/171、支保パッソーン図(6)～(12), (14)のロックボルトの規格は、D IIIa が耐力 170kN 以上、C I -L(H) は 290kN 以上になっています。 一方、東占冠 TN 詳細設計、第 3 編_施工計画書.pdf P1-14 の表には D IIIa が耐力 290kN、C I -L(H) は 170kN と記載されています。 どちらが正しいでしょうか。	D IIIa=耐力 170kN 以上、C I -L(H)=耐力 290kN 以上が正です。
1 5	注入式長尺鋼管先受工(AGF) L=9.5m を 1 シフト施工する D IIIa(H)-SB-F1 の区間長は 15m あります。 1 発破進行長あたりの AGF の作業時間(AGF1 シフトの合計時間)/(15m) から D IIIa(H)-SB-F1 のサイクルタイムを計算すると月進 44m/月になります。 一方、参考図 4/40 工事工程表の D IIIa(H)-SB-F1 の平均月進は 39m/月です。 39m/月の算出根拠についてご教示いただけますか。	D IIIa(H)-SB-F1 の平均月進 39m/月は、坑口部を除いたものとなります。

番号	質問事項	回答
1 6	<p>トンネル設計図 33/171、支保パッソ(18)、吹付け・ロックボルト工図の吹付コンクリートの引き出しに(300)の記載があり、注記に()は D I -K-S2 断面の吹付け厚さとあります。</p> <p>一方、トンネル設計図 35/171、支保パッソ(20)、D I -K-S2 断面の吹付コンクリートは、t=100 と t=(250)の 2 層になっています。</p> <p>どちらが正しい記載でしょうか。</p>	トンネル設計図 35/171 が正です。
1 7	<p>トンネル設計図 35/171、支保パッソ(20)、鋼アーチ支保工材料表の H 型鋼合計の重量は、96.98kg→196.98kg ではないでしょうか。</p>	196.98 kgが正です。
1 8	<p>トンネル設計図 34/171、支保パッソ(19)、C I -K-S2 の材料表にある吹付コンクリートの数量は、t=50:14.035m²→17.544m²、t=250:13.093m²→16.367m² ではないでしょうか。</p> <p>また、C II -K-S2 断面詳細図のロックボルトのピッチは 1500→1200 ではないでしょうか。</p>	C I -K-S2 の材料表にある吹付コンクリートの数量は t=50 : 17.544m ² 、t=250 : 16.367m ² 、ロックボルトのピッチは 1200 が正です。
1 9	<p>非常駐車帯・避難連絡坑一般図(2)、(4)において C II -K-S1, S2 と C I -K-S1, S2 の無発破工法区間は「割岩工法」になっていますが、一般図(6)の D I -K-S1, S2 の無発破工法区間は「機械掘削工法」になっています。</p> <p>特記 28-14-1(1)から D I -K-S1、S2 も「割岩工法」と考えてよいですか。</p>	D I -K-S1、S2 も割岩工法となります。